

牛久：学校周辺に見る自然

第11号 ひたち野みずべ公園（ひたち野うしく小）

2021年5月19日発行

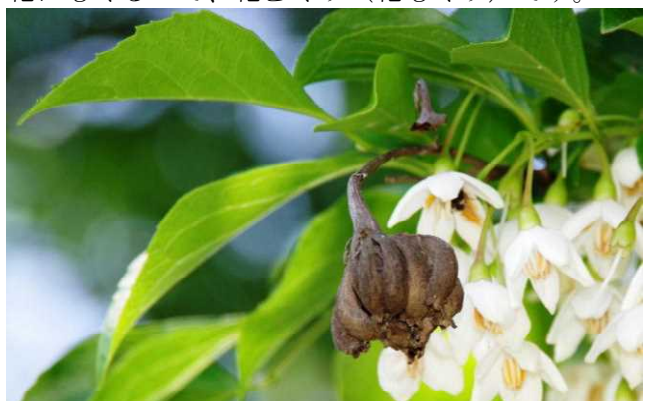
＜ 初夏のみずべ公園 ～エゴノキに集まる虫たち ＞

みなさん、こんにちは。晴れて、24℃まで気温が上がった5/10、ひたち野うしく小4年生とみずべ公園を歩いてきました。今年の4年生は、「みずべ公園をとことん知ろう」ということで、総合的な学習の時間も使って一年間調べてまわるそうです。成果を期待しています。10日前の下見の時には咲いていたアキグミももうほとんど花は終わっていましたが、エゴノキやハコネウツギは満開でした。今回はそのエゴノキと、そこに集まっていた虫たちを紹介しします。元年度10号、30年度13号でも同様の内容がありますので、合わせてご覧下さい。



甘い香りを漂わせ満開のエゴノキ（左上）と、その花粉や蜜をなめるコアオハナムグリ（右）、蜜を吸うコマルハナバチ（左下）。

白い小さな花をたくさんぶら下げた、エゴノキ。甘い香りが漂っていました。その香りに誘われてか、コマルハナバチやクマバチ、ミツバチなどがかわるがわる蜜を吸いに来ていました。花にもぐって蜜や花粉をなめていたのは、コアオハナムグリ。花にもぐるので、花むぐり（花もぐり）です。



エゴツルクビオトシブミのゆりかご（左）と、今年の虫こぶ、エゴノネコアシフシ（右）。

花の他にも、ぶら下がっているものがありました。葉を切ってくるくと巻物のように巻かれていたのは、エゴツルクビオトシブミのゆりかご。中に卵が入っています。茶色いバナナのふさに似たのは、アブラムシが木に作らせた虫こぶ、エゴノネコアシ（えごの猫足）です。【理科支援員：宮内】